

研推だよりNo.11



令和4年
8月31日
研究推進部会

もうすぐ夏休みが終わろうとしています。私もほっと一息…と思っていたらあっという間に過ぎ去ってしまったような夏休みでしたが、先生方はリフレッシュされたでしょうか。

2学期も迫る中で、校内研究も第2ステージに突入といったところになります。1学期に行った実践を踏まえて、夏休み前には先生方が今感じてらっしゃることを色々と話合っていました。お忙しい中、ありがとうございました。以下、全体会の記録とそれを受けて研推だより担当として考えたことを載せさせていただきました。御参考ください。

1 第3回研究全体会報告（記録：渡部）

1 校長先生より

（松田先生から）

- ①教室の後ろの棚について。タブレットをしまう際、ラックだと密になってしまうため、ラックから取り出して、ロッカーの棚の上にタブレットを入れるための段ボールにしまうようにしている。
- ②子供が帰るときは、ラックに置くだけ。（混雑防止）その後は、電気係がコードをさすというようにしている。
- ③南町では、タブレットを机の中に入れると壊れてしまう危険性があるので入れていなかった。（校長先生より）
- ①松田先生の教室を見せていただいて、いいものを見せてもらったと思います。各教室を回ると、扱いが良くない児童もいる。文房具として大事にしていくようにしたい。工夫して取り扱うようにしていきたい。
- ②今回の校内研究では、タブレットを文房具として使用することや、使用する際のきまりについてのことなど、ざっくばらんに意見を出し合う機会にしていきたい。今回の話し合いをもとに、2学期から、タブレットを扱うにあたり、より良い方法を考えていけたらと思う。

2、研究、ここまでの経過について思っていること（ワールドカフェ方式で）

《前半》グループ①～⑤に別れて話し合い。

《後半》記録者（ホスト）は残り、それ以外のメンバーはまた①～⑤に別れて話し合い。

3 共有の時間（グループ①～⑤の発表）

各グループの話合いについて分類・集約していくと、以下のように考えることができます。

- ①本校の研究として、何を目指していく（児童のどのような力を高めていく）のか？
- ②児童の思考の深め方について
- ③情報活用能力の向上について
- ④ICTに関わる機器の操作や活用について



1 グループ（藤原先生）

- ・技術面を磨いていて楽しんでいる。その一方で、思考やコミュニケーションスキルはなかなか深まらない。
- ・各学年のめざす内容が難しい。手段としてのタブレット使用も難しい面もある。
- ・思考の深まりについてはクラス全体で共通理解を図った方が良いという意見の先生もいれば、それについては共通理解をする必要はなく、個人個人で深めていけばよいのではないかという意見の先生方がいて、意見が別れた。

2 グループ（渡部先生）

- ・低学年のうち、基本操作を身に付けることが大事。それを基に、高学年では応用できるようにしたい。
- ・三小として、低・中・高でどういうことをさせていくのが良いか目指すかをはっきりとすることが大事。
- ・教師の技量が追い付いていかない。使用する際の教師の負担が大きい。
→タブレットを使用するにあたり、専門の人材を派遣し、相談できる人がいてほしい。

3 グループ（竹内先生）

- ・子供たちが必要な情報を取捨選択することが難しい。
- ・コミュニケーションスキルの素地作りが大事。
- ・タブレットを使っただけの有効性。
- ・三小として目指すところをはっきりすることが大事。

4 グループ（林先生）

- ・タブレットペンがあるとよい。高学年の外国語など、イヤホンがあるとよい。低学年ではマウスがあるとよい。
- ・持ち帰り家庭によってはネット環境が難しいのではないか。ネットを介さない活用の仕方もあると思う。
- ・タブレットの使用により、読書する機会が減った。

5 グループ（福柁先生）

- ・（実践について）高学年になって、必要なツールを取捨選択できるようにしていきたい。
- ・各学年での身に付けさせたい力をはっきりとさせることが大事。

3、終わりの言葉（副校長先生）

限られた短い時間で取り組んでいただきありがとうございました。9月から、タブレットは持ち帰りになると思う。より安全に使用できるように、一人一人の表現が豊かになるようになるにはどうしたらよいかを実践を通して研究していけたらよい。

必要な情報を取捨選択する力が身に付いていないという実態がある。



2 全体会を受けて、研推より

先生方が話し合ってくださいました内容について、今後どうしていくのか研推としても検討しました。

①本校の研究として、何を目指していく（児童のどのような力を高めていく）のか？

校内研究という取り組みなので、目指していくゴールは「児童の課題改善」です。前年度までの研究から見えてきた本校児童の課題の一つが「思考力、（判断力）、表現力」でした。この経緯については、研推便りNo.1でもお知らせし第1回の研究全体会でも共有していますが、ここでもう一度共有しておきたいと思います。

主題設定の経緯（昨年度の研究から）

①（昨年度末の）全体会での話し合いから、三小の子たちに足りない力として「**学習内容や学習のねらいについて深く考える『思考力』**」と、「**自分の考えを分かりやすく伝える『表現力』**」の2つが見えてきた。

②児童が思考したことは、第三者は「思考」そのものだけを見とることはできず、思考したことはその児童なりの「表現」を介して伝わるものであるから、思考力と表現力を切り離して考えることはできない。（学習指導要領でも、新たに求められている資質・能力の1つとして「思考力・判断力・表現力」は一体として示されている。）

③思考したことを表現する際に、タブレット端末などのICT機器を活用することは児童の考えを表現する可能性を広げる一つ的手段であり、**ICT機器を活用した様々な表現方法を学ぶことで紙媒体で表現することの良さもまた見えてくる。**

④ICT機器や紙媒体のみならず、目的や自分の意図したことを適切に表現する手段を多様にもっていることは、今後の社会に出ていくうえでも大切な力の一つと言える。

※研推では、この「**目的や自分の意図したことを適切に表現する手段を多様にもっている**」児童の状態を、**表現力が「豊か**」と捉えることにした。

ここ大事です！

⑤以上のことから、**研究主題「思考したことを豊かに表現する児童の育成 ～ICT機器の効果的な活用を通して～」**を設定した。

上記の経緯の中にもある通り、本校の研究のゴールは

目的に沿って、自分の考えや意図したことを適切な方法で表現することができる、そしてその方法を多様にもっている子供を育てていく

ということになると思います。（これはあくまでも現時点のもので、その後変わっていくことも十分に考えられますが）子供たちが多様な表現方法を身に付け、自分の考えを分かりやすくしていくことは大切なことであり、それはどの先生方も同じようにそんな子供たちに育てていきたいと考えていると思います。その**実現のために大切な要素となってくるのがICTの活用**です。タブレットを中心とした機器の活用により、子供たち一人一人が多様な表現方法を身に付けていけるよう、

そして表現することでさらに自分の思考も深まっていくような、そんな研究を私たちでしていけたら素敵だなと思います。

②思考力の深まりについて

私は普段の授業中、子供たちの様子をじーっと見て「あ、あの子は今〇〇について▲▲だと考えているはず！」と感じ取ることはなかなかできないです。というかほとんどの場面で無理です。思考そのものをそれ単体で見取することは難しく、やはり考えたことが表されているノートや作品などを通して「なるほど、この子はこんな風に考えていたんだ」「こんなにたくさんアイディアが思い浮かんでいたのか」と見て取ることも多い気がします。また、ペアやグループなど友達との話し合いの様子や、全体での発表の場面などからその子の考えを知ることができます。このように思考と表現は本来一体のものであり、個別に評価することは困難です。



それでももし、「表現力の方ではなくて思考力が深まっているか」のみを確認していくというのであれば、例えば発表の話型のようなものも必要になってくるかもしれません。話型を教えることは単なる形式的な指導ではなく、考えたことを表現することの困難さを解消し、表現することへの意欲を高めます。「言い方が分かったから、自分の考えを言ってみようかな」という子が出てくるはずですし、また一方では「言い方は分かったけど、考えが思い浮かばないなあ」という子を見つけて支援しやすくなるはずですよ。

一見ありきたりではありますが、主題に照らし合わせればこのあたりも研究する価値としては十分あると思います。低学年としての手立てに取り入れてみてもいいかもしれませんね！

③情報活用能力について

収集した情報を目的に沿って取捨選択し、適切に活用する力の大切さは以前から叫ばれていましたが、最近ではさらにその重要度が増してきていると感じます。それは情報の取捨選択が情報リテラシーの一要素であることや、キャリア教育の上でも欠かせない視点であるという指摘です。フェイクニュースなど誤った情報もあふれている現代では、真偽を見極める力、見極めるために情報を確かめる力が必要になってきます。中学校や高校でもこのメディアリテラシーに関する授業も全国で増えてきているようです。



実際の学習場面では、まず第一に「課題をしっかりと把握すること」が大切な気がします。単元の導入時に、学習する「問い」が自分事になっていないとその後の調べる時間もどこか他人事でやらされている学習に陥りがちです。やはり調べる行為の主体である児童一人一人が、自分（もしくは学級全体の）疑問や問い、調べてみたいといった意欲に裏付けされた学習を展開していくことで「これは自分の課題には合っていない」「この情報があれば課題解決につながるかも」といった意識になっていくのではないのでしょうか。

情報を適切に活用する（その中に今回の「取捨選択する」も含まれます）力を育てていくためのポイントは他にもありそうです。ぜひ各学年で話題にしてみてください。

④ ICTに関わる機器の操作や活用について

やはりタブレットなど機器の操作の上達は私達大人だと難しいところがあると感じます。この多忙な中でそれに費やす時間をもたない、と感じられるのもその通りだと思います。私（中島）も研修などに外部の講習など積極的に参加していこう！というのなかなか考えられません

そう考えると、やはり**実際の授業で活用しながら、自分のスキルアップも同時に行っていく**、ということが現実的だと思います。授業でこんなことさせたいな…という思いがあれば使ってみる気も高まるものです。そうなってくると、特に**重要なのは情報交換**です。特に学年内などでタブレットを活用した授業実践を積極的に紹介しあって「**こんな風に使ったらうまくいきましたよ!**」「**これやってみたんですけどちょっと子供たちには難しかったみたいです…**」

「**これやると大体〇分ぐらいでできます**」などなど普段からちょこっと話題にしてもらうだけでも活用のハードルが下がる気がします。「使えるようになれば便利なのだろうけど、そこに行きつくまでが遠い…」といつまでも思っているのは現状維持のままですから、まずは使った先生が積極的に学年での話し合いで話題にさせていただいて、学校全体で取り組めるようにしたいですね!



一方で、子供たちは使わせれば使わせるほどどんどん上達していきます。2学期以降にタブレット端末の持ち帰りが始まることを考えると上達のスピードはさらに加速度的に進んでいくはずですが、講師の石出先生もよくおっしゃっていますが「**個別最適な学び**」の観点からも、できる限り必要のない制止をやめて、自分で使わせていく中で生じた問題についてみんなで考えたり話し合ったりして解決していく、という考え方でいいんじゃないかと思っています。（もちろん使用する際の約束の確認や注意点については学んだ上で、ということになりますが）